

‘Road to the Future’ が提示した 今後の司書の専門性について

青柳 啓子（甲州市立勝沼図書館司書）

司書の専門性はどうあるべきか、ということについては、日本の図書館界で度々問題になっている。

この議論の中では、司書の専門性とは何かという根本的な問いから、司書の社会的地位が低いために専門職を目指す人材を集めることが難しいという現実的な声まで、様々なレベルの話になってしまい、私たちはなかなか解決の糸口を見いだせない。

そういう状況だから、児童サービスや学校図書館の分野において、世界的な水準の養成教育がオンラインでされているという現地の大学院の先生方からのこのシンポジウムでの報告は、私にはとても刺激的なものであった。日米の司書職を比較して最もわかりやすい違いのひとつに、司書の資格制度がある。大学院で MLIS (Master of Library and Information Science) を取得することが、専門職団体がいう必須の条件であるアメリカの制度に比べ、日本の司書資格は大学学部レベルでの教育にとどまっていることが、専門職としての地位を認められない一因になっている。それ故、これから司書専門職を目指す日本の学生が、オンラインで海外の修士を取得するというのをキャリア形成の選択肢に加えることができることを知り、とても心強く感じた。

カナダのアルバータ大学のジェニファー・ブランチ (Jennifer Branch) 氏は Teacher-Librarian になるためのプログラムについて発表した。教育学修士、図書館情報学修士号 (MLIS) をオンラインで取得できるほか、学校図書館スペシャリストである Teacher-Librarian のコースもある。そのコースについては課題の例が紹介された。中でも学生が関心のある専門的なことについて一人1章書いて、65~70章の電子ブックに仕上げ、卒業時に渡されるという電子ブックプロジェクトはとても魅力的だ。ブランチ氏によると、学校図書館司書という国家資格がないので、資格の重要性は行政でも理解されていないようだ。1990年代に予算の采配が校長先生に任されると、Teacher-Librarian は激減してしまったという。日本と同様カナダでもやはり政治や行政が学校図書館に大きな影響力を持っていることがわかる。

アメリカからはオンライン教育で10年の実績を持つサンノゼ州立大学サンドラ・ハーシュ (Sandra Hirsh) 氏より iSchool の報告があった。多くの学生はパートタイムの学生で MLIS 取得に 2.5~3.5 年かけるという。iSchool とは、図書館情報学を基盤としつつ、幅広い情報領域に関する研究を行う大学院課程である¹⁾。2018-2019 年だけでも MLIS 資格取得者が 498 名と、プログラムの浸透ぶりがうかがえる。INFO203 というコースは必修で、主として学修のためのオンラインツールの使い方を最初の 4 週間かけて学ぶ仕組みになっている。プログラムを修了しても、さらに発展的な学びとして、library2.0²⁾ のサイトが用意されている。そこでは図書館情報学の最新情報が提供され、参加費無料の会議やオンラインセミナーもあり、就職しても学び続けることができる。

また同大学のメリー・アン・ハーラン (Mary Ann Harlan) 氏は、Teacher Librarian コースについて発表した。現代の学校図書館像の新たな三つの傾向——一人ひとりに合った探究学習；メーカースペース；デジタルアクセスの増加 (Personalized inquiry learning; Makerspaces; Increased digital access) ——は、とても明快に学校図書館の今後の道を示

してくれた。

スペインのバルセロナ自治大学のクリスティーナ・コレロ・イグレシアス (Cristina Correro Iglesias) 氏の発表は、スペインの歴史と図書館の児童サービスの意義について語るころから始まったのが印象的だった。スペイン国内で司書養成の最も長い歴史を持つバルセロナで Librarian School が設立されたのは、1915 年である。当時の政治家、学識者は文化的社会的変革を起こすためには、優れた Librarian のネットワークが重要だと認識していた。だが、1936 年のスペイン内戦の勃発で事態は大きく変わってしまう。40 年間に及ぶ独裁政権により、検閲が行われ、図書館や学校ではカタロニア語、バスク語の本の提供や海外の本の紹介ができなくなった。1939 年から 70 年代までは学校は図書館を持たず、児童文学は口頭で伝えるしかなく、フィクションの出版は禁止された。独裁者（彼女は決してその名を口にしなかった）の死後、70 年代後半から出版状況は立ち直ってきたが、まだ回復途中であるという。そのような事情で司書、教師に十分な教育ができていないこと、また学部では司書養成に不十分なことが、スペインの子どもたちが PISA の読解力テストで良い成績を取れない原因になっているという分析だった。そんな状況の改善のために 16 か国から参加している児童文学研究者グループ Gretel が他の機関と共同で作った五つの大学院課程コースが紹介された。中で興味深かったのは、EU のエラスムス・ムンドゥスのプログラムの Children's Literature, Media, & Culture である。5 大学のコンソーシアムによる経営で、2 年制。1 年は 2 学期制で、最初の年に必修科目を 1 学期はグラスゴー大学で、2 学期はオーフス大学で学んだら、2 年目は選択科目をバルセロナ自治大学、ティルブルフ大学、ヴロツワフ大学のどこかで取るというように、学ぶ地が変わる。多様性が重要な価値観である現代において、留学の国を変えながら学べる意義は大きいはずである。

スペイン教育界が 40 年間の独裁政権を経験したことは、司書養成プログラムの中身にどんな影響を与えているか尋ねた。彼女の答えは「だからこそ私たちは、またこのスタート (1915 年) から始めなければならなかった」ということだった。スペインの司書養成は政治のために失われた教育を取り戻すことからスタートしていたのだ。

このシンポジウムでは、オンライン教育の有用性について学んだ。日本では、司書資格取得の次のステップとして、また司書のリカレント教育を行う上でも、世界レベルの質の高いオンラインの教育内容に今後学ぶべき点は多い。ディスカッションを採り入れたプログラムは、旧来の遠隔教育に対する私の古いイメージを完全に塗り替えた。

昨年末、日本では文科省がギガスクール構想 (GIGA: Global and Innovation Gateway for All)³⁾を発表した。今年、全国で子ども一人に 1 台の PC が整備されることとなり、日本の教育の ICT 化が今後急速に進むことが予想される。それに伴い、教育界全体において、オンライン教育のメリットを活かしたプログラムの研究が求められるだろう。しかも、2020 年 3 月現在、新型肺炎ウイルスの感染防止のために子どもたちが登校できない状況にあり、オンライン教育の必要性は社会全体でにわかに注目されている。

また海外の情勢に触れたことで、今後の児童サービスの研究について二つの新たな視点を私は見出すことができた。ひとつは、スペインの報告により与えられたく社会情勢と関連して児童サービスの歴史を批判的に見直す>という視点であり、もうひとつは今、図書館にある児童書を世界の文脈で読みなおすことの重要性である。

良い児童書を子どもたちのために選択することは難しい。児童書を正しく評価するために「歴史」と「世界」の二つの切り口で見直すことによって、トレンドのみに左右されず、現代の子どもたちに伝えたい優れた本を選択することが可能になるのではないだろうか。

そのように良い児童書を見出したなら、次に日本に住む多様な人々とそれを読んでみよう。そうすれば、さらに新たな価値観が加わるはずである。実際、絵本を読みあうことでそういう体験をしたことが私にはある。また、共通のテーマに関して選書をすることも考えられる。例えば「現代の『多様性』をテーマにした子どもにすすめたい本にはどんなものがあるのか？」という問いをアジア諸国他国外の司書たちに発信し、その回答を共有することで、各国の子どもたちの状況や問題が見えてくるのではないかと思う。『家族』『核の問題』『災害』など、考えられるテーマはいくつもある。

今後、日本の司書が新たに身に付けるべき力は、変化していく現代の図書館のデジタルリソースとサービスに対応できる能力と、グローバルな視点を業務に活かせる能力であろう。情報に国境がないのだから司書の仕事や専門性に国境はないというのは、司書養成において重視すべきポイントではないか。一人二人の司書は点かもしれないが、その点が線となり、時間がかかっても波となっていくことで、日本の司書をめぐる社会的状況の改善につながることを期待している。

-
- 1) 古賀崇「4.1. アメリカ図書館協会認定校の変遷と iSchool の動向」中村百合子・松本直樹・三浦太郎・吉田右子編著『図書館情報学教育の戦後史』ミネルヴァ書房, 2015, p.203-222.
 - 2) Hargadon, Steve. "Library 2.0," <https://www.library20.com/>, (accessed 2020-3-10).
 - 3) 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課「GIGA スクール構想の実現について」https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm, (参照 2020-3-10).